

連盟ニュース

294

神奈川 7

2009.7.14



「2009-07 尾瀬ヶ原のミズバショウと至仏山」 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

巻頭言 富士登山に思う	高橋勇三(藤沢山の会)	2
定期理事会 開催のお知らせ		7
遭難対策部より 3/ ビーコン講習会のご案内		4
山岳遭難事故、過去最多。なぜという疑問から対策を	中山建生	5
会山行紹介 湘南・森戸川源流 てんぷら山行(やま++との交流)	藤沢山の会	6
2009年救助隊訓練報告	記録 宮澤春美	8
ハイキングリーダー学校活動報告		9
ミニ学習・三角布の使い方の実習を見て	中山建生	10
全国ハイキング担当者会議報告	全国ハイキング委員 小野寺英夫	11
09丹沢クリーンハイク ゴミ集計水質調査/自然保護集会報告		12
「登山者のための-ヤマビル シンポジウム」 参加者募集		15
第17回全国ハイキング交流集会in唐沢鉱泉 9/12~13		10
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		13
登山時報紹介		15
県連のスケジュール/全国会議行事予定		16



神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階

発行責任者 後藤 真一

TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

富士登山に思う

高橋 勇三(藤沢山の会)

登山時報7月号の富士山特集[今、富士登山の安全と魅力を考える]を読みながら、昭和34年の夏、初登頂した当時は懐かしく思い出されます。あれから50年経ち、今の富士は時代と共に交通が便利になり、山小屋が整備され、装備も良くなり、登山者が増え、年間30万人が登る大衆登山のメッカとなりました。

私の今年度の富士の初登山は、連盟ニュース神奈川6月号の巻頭言、磯部津輝子さん(地平線)の「元気な女性たちよ、どこへ行く。ヒマヤへ行く!？」に掲載の、労山50周年記念行事女性委員会の「ヒマラヤ学校」インドヒマラヤトレッキングの高所訓練の第2回目が6月29日(土)、30日(日)に行なわれ、参加者20名の高度順化のサポートとして同行しました。

丁度、私も7月のペル - アンデス行きの高度順化を兼ねていますので、ペース配分を二日間かけ足慣らしのゆっくりペースで行動したため、全員まずまずの体調で高度順化が出来ました。

今年の富士山は例年より雪が多く、7合目より頂上まで雪がびっしり積もっていました。7月1日の山開きには一般登山者(客)が登れるようにと八合目より上の登山道を山小屋組合の100名のスタッフが除雪作業中でしたが、しかし土は現れず一人が通れる幅の氷の回廊の状態でした。

労山隊はアイゼン装着し登れましたが、こんな状況の中、数社のツアーの団体が登って来ました。おそらく夜行バスの催行だと思いますが、登山客の服装は軟弱だし、軽い高山病にかかっている人もいました、行ける所まで行けの無理な催行だと思います。もうこれ以上登るのは危険とツアーリーダー

の判断で、やむなく八合目から下山して行きましたが、山開き前に富士登山ツアーを催行している旅行会社がこんなにあるとは驚きでした。

旅行会社は、富士山の魅力で募った集団登山の企画でしょうが、こんな時期に富士山の現状も把握せず、安全管理を無視した営利だけの目的の催行を見直してもらいたい。

迷惑なのは応募した登山者(客)です。旅行会社は不特定多数の人を対象に募っているので、安全で安心できるツアーを催行してもらいたい。

富士登山は積雪で通行規制していましたが7月10日に通行解除となり、いよいよ本格的なシーズンに入りました、今年も30万人の賑わいが予想されていますが、しかし、体力不足や高山病等で3割が登頂出来ずに下っている厳しい現状があります。

今回、無念の下山をしたツアー客の皆さんが再度挑戦して登頂の感動を味わい、富士山の魅力に目覚め山のとりこになってもらいたい。

労山「ヒマラヤ学校」も既に一コース22名が実施済みですが、これから挑まれる気力、体力、口も、元気バリバリな50名が、富士山での高所訓練の成果を出して4コースのインドヒマラヤで大いなる女性のパワーを発揮してください。



遭難対策部より

遭難対策部長 田村

梅雨明けも間近に迫り(この文をご覧になる頃には過去の話?)、夏のお休みも目前ですがいかが過ごされてますでしょうか? 長期休暇前の時期にはいつも注意喚起を行っていますが、今回は少しざっくばらんに話してみたいと思います。

昨今の異常気象に伴い、過去の経験が役に立たないことを常々主張してきましたが、皆さんはどのようにお考えでしょうか? 「温暖化って気温が上がることだから、雪とか雨が少なくなって、山に行くには良いんじゃない?」とか考えていませんか? 実は逆なんです。

上がるのは地球全体の温度ですから、空気はもちろん、海水などの水の温度も上がります。水の蒸発量は増え、空気は大量の水分を保有できるようになるので、空気中の水分量は増えます。気温が高いままなら不快指数が上がるくらいですが、そのような空気が山に吹き付けられて上昇したり、寒気とぶつかったりしたらどうなるのでしょうか? 湿気たっぷりの空気は冷やされて雨雲となり、いきなり的大雨になってしまいます。昨年来、問題となったゲリラ雷雨もこのような仕組みから発生するそうです。

こういった天候の急変をにおわせる天気予報の解説:「天候が不安定」、「寒気が通過」といった言葉は年々増えてきているように思えます(あくまで個人的感想です)。今までは「寒気」というと「冬にやってくるもの」というイメージがありましたが、昨今はそうではそうではないようです。また寒気以外にも局所的な上昇気流による降雨も多いそうです。寒気や上昇気流は以前からあったのかもしれませんが、ただ、今までは降雨までには至らなかったものが、空気中の水分増加により雷雨にまで発展することが多くなったのかもしれませんが。

また寒気や上昇気流による大雨以外にも、高気圧が張っていて天気良さそうな中での雨(大雨ではないが、予測ができない雨)も増えているように思えます。これは天気図では高気圧に覆われているようでも、図にはあらわれない谷間があり、そこが低気圧と同様の

作用を起こし、やはり湿気の多い空気との組み合わせで降雨に至っているように思います。いずれにせよ温暖化により突然の降雨は以前より多くなり、また大雨や雷雨になりやすいと考えるべきだと思います。

多少の経験があれば雨をしのぐぐらい何でも無いと思いがちですが、山での雨は体温を奪い、体力を奪います。高齢化による体力低下、仕事が忙しいことによるトレーニング不足、その他の体調不良と重なれば、何ともない雨でも、命取りになってしまう恐れがあるのです。

「山は危険だ!、山に行くな!」とは言いません。繰り返しになりますが今までの経験を過信せず、最新の知識と情報、そして対処方を持って山に行っていたいただきたいというのが私からの願いです。

さて次ページにて案内させていただきますがピーコンの講習会を8月の17日及び25日に行います。なんで8月に冬山で使うピーコンの講習会を行うのか不思議に思われる方も多いことでしょう。私としても、もっと涼しい時期に行いたいと思いますが、山は年間計画で考えなくてはなりません。10月、11月は冬山の下見と秋山の堪能の時期であることを考えると、講習会としてはそれ以前に済ませて起きたいのです。ピーコンの使い方を学び、あらかじめ練習もすることを考えると、机上の学習は8月に済ませておかなければならないのです。今回はまだ考えていませんが、リクエストがあれば9月に実技練習をしても良いかと思えます。そういったわけで、8月からピーコンの勉強を始めるのです。

講師の中山さんも張り切っており、事前勉強のための資料を大量にいただいています。多くの方に参加していただきたいと思えます。



ビーコン講習会の案内

これから夏ですが、冬に備えてビーコンの講習会を行います。

なぜいまさら、ビーコン講習を行うのでしょうか？

労山でのビーコンへの取り組みは早く、普及は進んでいるはずですが。

それは、1. 新しい技術の台頭への対応

アナログからデジタルへ

新しい複数搜索方法

2. 求められる技量の変化への対応

探せるだけでは駄目

複数埋まっても、15分以内に全員を掘り出せないといけない

3. 以上の変化に対して、労山内での指導者層の対応ができていない
ができていないからです。

講習の対象となる人 ビーコン初心者

デジタルビーコンに買い換えた人

各会、労山内の指導者層

上記2の「求められる技量」を満たしていない人

講習内容 労山内でもっとも普及していると思われる、
デジタルビーコン：トラッカーDTSとピープスDSPの
2機種に対して個別の講習会を開催します。

内容(予定) ビーコンとは、デジタルビーコンの動作・仕組み・機能
ビーコン搜索（雪崩事故からの救出）に求められること
搜索～救助までの流れ

使い方（機種別）

なぜ、持っているだけでは駄目なのか？

講習会日時 場所：かながわ県民活動サポートセンター（横浜駅西口 ヨドバシカメラそば）

日時 トラッカーDTS講習会：8月17日(月) 19:30～21:30 604号室

ピープスDSP講習会：8月25日(火) 19:30～21:30 601号室

参加費用：500円（関東ブロック内の労山会員）

ただし神奈川県連の救助隊登録者、遭難対策部員、教育部員は無料といたします。

上記以外の方は1,000円です（労山会員でなくとも受講できます）。

申し込み方法 下記の連絡先に、氏名、所属会、参加希望日をお知らせください。参加費無料の対象の方は、その旨もお書きください。会場の定員になった場合、お断りすることもあります。参加者には資料を送り、事前勉強していただくため、申し込みの期限は8月3日とします。それまでに下記の要領にてご連絡ください。

連絡先 メール：kanagawa_soutai@yahoo.co.jp

FAX：050-3488-3765 遭難対策部宛であることを明記してください。

補足 もっとも重要なことは雪崩に遭わないことですが、そのための講習は全国や関東ブロックが行う雪崩講習会がありますので、そちらを受講してください。

搜索～救助～手当～搬出の一連の訓練も必要ですが、今後の検討とさせていただきます（救助隊隊員になれば、冬の訓練で行われます）。

要望があればアナログビーコンの講習、実技講習その他も検討しますのでご連絡ください。



写真はwebページから拝借



写真はwebページから拝借

山岳遭難事故、過去最多。 なぜという疑問から対策を

2009.7.5 神奈川 中山建生

だれもが遭難事故を防ぎたいと願っています。しかし、ここ最近の事故はなぜと首を傾げるものが殆どです。7月4日朝日新聞にも「山岳遭難、08年最多」として事故件数、遭難者数がいずれも過去最多であり、特に中高年者がその内の8割を占め40代以上と報道しました。すでにご承知の通り 道迷い 転落、滑落 疲労がその主な原因とあげられています。しかし、なぜ道に迷ったのか、なぜ転落したのか、なぜ滑落したのかの追求がありません。表面的な原因を指摘しても具体的な対策や教育活動の実現にはつながらないのです。これには別の理由があります。私は以前に具体的な事例をあげて問題点を指摘しました。道に迷うのは 下調べをしない 他人の後についていく 地図を持たないなどでした。その理由は「道に迷うような山には行かないし、駅に置いてある略図でもあればいい、だれかと行くのだから迷ったりしないという安易な気持ちとグループの場合にはリーダーに任せているから自分は調べないでもいい」という言い訳をしています。これには自分は経験があるから遭難事故など関係ないという意識が働いています。一度問題を起こすとまたかと言われるため二度目、三度目は隠すという態度になりました。会もこの事実を知っていましたが問題にすると争いごとになるため表だって取り上げませんでした。こうしたことが会全体の気風をいい加減なものに、問題が起きそうなのに放置するという、規律をなくし、役員までもが出鱈目をするようになったのです。

本格的な登山をする会でも会員の下調べが不備なために、地元では廃道となり使われていない道に入り込み迷った挙げ句、救助隊が出勤することになりました。これは市販の地図が何年も調べず放置されままだったことを確かめなかったからです。多くはこまめに再調査されないの地図に頼るだけでは失敗をします。

山岳会が行うべき教育活動の質が低下したこと、教える者がいないこと、さらには自分たちが出来ることでも面倒だ、煩わしいという空気が蔓延しています。登山内容をきっちと点検すれば時間配分に無理がある、装備に不足したものがあ、メンバーの技量にばらつきがあり目的が絞れないなど明らかなのにこれをあいまいにして放置しています。会員個人のレベルにも問題があることは確かです。トレーニングをしない、学習をしない、打ち合わせをしないで山に行くからです。登山をスポーツとして位置づけ安全登山の実現こそ私たちが求めた山岳会活動の基本であったものがその柱を失っています。事故が起きても反省をしない、教訓を得て再発防止の活動に取り組まない。会員個人にも会にも登山の健全な発展を目指す意志がないからです。これに気付いた人たち、会は遅まきながら役員の養成、学習の実現、山行活動の工夫に一步を進めています。事故には自然の側の問題と、例えば雷ですが、これを予想する、回避する人間の判断と行動があります。この判断と行動がきちとしないのです。せっかく来たのだから。もう休みが取れないから。今まで大丈夫だから。なにひとつ雷の危険を回避する具体的な根拠となりません。挙げ句の果てに、ずぶ濡れになったことが自慢話に化けたりします。組織そのものが疲弊すれば、会員のわがまま勝手を黙認しさらに会の規律を弱めていきます。事故の原因は明らかです。これを改めるのか、そのまま放置するのかふたつにひとつです。勤労者山岳連盟の立場は前者の答えしかありません。条件や方法はいくつかあっても答えはひとつなのです。最近はこうしたことが議論されるようになりました。そもそもこれ自体おかしなことです。さて始めの問題に帰りましょう。事故は防がなくてはならない。これに反対はありません。としたら次のステップです。事故の原因を明らかにして対策をとるのです。良い会づくり、信頼される仲間づくり、こそ登山を普及する原動力となるからです。



各会の山行紹介

湘南・森戸川源流 てんぷら山行（やま++との交流）

藤沢山の会

日 時： 2009年4月18日(土) 天気：晴れ

参加者：総合L西口文

1班：CL池田、SL西口浩、藤富(会計)、安藤、大島、角田正、角田淑、新井、松本、内田、福士、橋本。

2班：CL中村、SL木村、川村富(会計)、太田、川村勲(タケノコ掘り担当)、清水、藤井、大芝、小山(感想文)、伊谷(感想文)、保坂。

やま++：5名 合計29名（会員の参加者数）男8名、女16名

*** コースタイム 西口 浩市 ***

J R 東逗子駅8:10 8:20二子山登山口8:25 9:25二子山分岐 9:40馬頭観音9:50（森戸川中沢）

10:20中沢源頭10:30 10:55乳頭山11:05 11:20上山口小学校分岐 11:40葉山水田跡地（タケノコ掘り、てんぷら昼食、交流）15:10 15:25上山口小学校バス停

行動時間7時間15分 歩行時間3時間00分

*** 費用等 ***

J R：藤沢 東逗子 230円 食材・燃料など：500円/1人 飲み物：600円/1人

*** リーダー所感 ***

今年は天気に恵まれて馬頭観音から中沢へと下ることができ、森戸川深部を歩きました。沢ではタニギキョウやニリンソウが咲き残っていてくれました。

おだやかで暖かく、心地よい風が吹き渡り、ハンショウズルやヒメウツギ、ホタルカズラ、ヤマドリソウなど花にもたくさん出会え、タケノコ掘りも好評で、楽しい時が過ごせました。食材、調理器具のご用意などみなさまにご協力いただきありがとうございました。

*** 参加者の感想 小山 良英 ***

今日は人気のてんぷら山行。皆、何故か楽しそうである。花のついているのは取らない、沢山あるところから少しずつ取り、次の年は別の所から取り、絶やさないようにする、という原則のもと、自然から春を少しいただき、皆でその喜びを分かち合う。

タンポポの花や、ヨモギ、ゼンマイ、ミツバといろんな種類の葉が集められ、時々、食べられないものも取ったりしたけど...。何もかもおいしかった。ユキノシタは揚げると、葉の毛がピンと立って、ちょっとホロ苦い。ドクダミは、あのくさい匂いはわからなくおいしかった。ヨモギはほんのり苦い春の香りがした。セリ取りをしたり、歌を歌ったり、そしてビールと共に穏やかな春の日差しの中でゆったりとした時間が流れていった。

帰りはゴミも油もきれいに持ち帰り、自然に感謝して、心もお腹もいっぱいになり、ホロ酔い気分で名残り惜しくも帰途についた。又、来年も参加しようっと！！



タケノコを掘った！



合唱を楽しむ

写真提供：西口、川村 勲

*** 参加者の感想 伊谷 知子 ***

暑くもなく寒くもなく、いい山行日和になりました。「大きめのザックで」とのことでしたので、38のザックに3の水を入れてでかけましたが、集合場所で誰に何と声をかけたら良いのかわからず、そのまま出発。結局食材運びは先輩任せ。拳句の果てにたけのこ掘りに興じている間に、広場では既に天ぷらがだいぶ出来上がっており、ただただ美味しいと…。持参したうどんはそっちのけで天ぷらをいただきました。申し訳ないと僅かのゴミを持ち帰りましたが、何も手伝うことが出来ずすみません！

草を摘み摘み、その度にリーダーさんに伺い、たくさん教えていただいた割にはさて、どれ程覚えているでしょうか。

ご馳走様でした。そして有難うございました。



緑の若葉と
春の花
美味しい
てんぷらと
筍掘り
たのしい一日でした

*** 参加者の感想
川村 勲 ***

2009年度下期定期理事会 開催のお知らせ

日時 2009年9月13日(日) 13時～17時

場所 かながわ県民サポートセンター

1501会議室

議題 2009年上期活動報告

2009年下期活動予定

2009年救助隊訓練

記録 宮澤 春美

当初予定では、初日丹沢登山センター付近でストレッチャー梱包、搬送を行う予定でした。しかし雨のため12時に県運事務所集合し、室内でのシート梱包に変更し新しい方法を練習しました。4時過ぎに西丹沢大滝キャンプ場へ移動。梱包班、システム班それぞれ装備分けを行い夕飯の支度に取りかかりました。会ごとの鍋ができて、持ち寄ったつまみ、鶴田さん差し入れのビールなどを囲み懇親会を行い明日のトレーニングの成功と、好天を予測して就寝。

6月7日 天気 晴れ

5:00 事故者パーティ(熊谷、平林)
キャンプ場出発。

6:00 事故者パーティと無線交信。
現在状況確認。

7:00 救助要請受信。
北緯 35 27 21 2
東経 139 02 22 9
標高 870m

左岸にいる 段差で5mずり落ちた
負傷者 太ももが痛くて動けない

7:15 負傷者は赤い雨合羽を着ている。
緑のツエルトを被っている。と事故者
からの無線連絡。

救助隊現在地 710m
尾根上から声がけをしながら搜索する
(海輪のみ声がけ)

7:35 事故者パーティ発見
事故者 大腿部骨折 意識有り

梱包班、システム班1、2とわかれ作業にかかる。



10:30 事故者交替(後藤)
徒手と樹木を支点とした引き下ろし
13:05 登山口へ搬出完了
ピッチ数 20数ピッチ

14:00 ミーティング

15:00 解散

参加者 6日 18名
7日 18名

川崎柴笛(3)
アルパイン横浜(1)
川崎労山(5)
みずなら(6)
めーぐり家(2)
相模アルパイン(3)



感想 事故者より

負傷者が不安になるよ
うな声が聞こえた。不安感 を与えないように。
ストレッチャーは以外に快適。しかし5時間45
分拘束されていたので、下半身に血が溜まった感
がある。エコノミー症候群になりかかった。解除
後足がふらつき、解除後事故になるかもしれない
ので見守りが必要。
梱包の新式はなんとか憶えた。従来より手間が省
けてスピードが上がる。

3~4回連続して訓練に参加したので、ほかのメン
バーとの意思疎通ができるようになった。
搬出の手順が手慣れてできるようになった。
箱根屋沢は事故が多いのでこのルートは憶えて方
がよい。

夜、昼ともに大変勉強になった。
2日間で、手順が良くなりスムーズな行動ができ
ている。指示等も適切に行われた。
引き上げ引き下ろし大変勉強になった。時間をお
くと忘れてしまうかもしれない。梱包は憶えきれ
ていない。

引き下ろし時のロープの廻転がスムーズに行かな
かった。装備を増やせばよいというものではない。
後半はスムーズに個人個人行動し時間短縮になっ
た。

一通り携わったので勉強になった。直前のMLが
流れず、大倉に行ってしまった。連絡方法を検討
して欲しい。

流れを見ているだけで各技術は覚えていない。負
傷者に気を配れなかった。

搬送に携わった。新梱包は憶えきれしていない。
基本はできるが応用はできていない。

救助訓練作業全てに携わったので、会に持ち帰り
伝えたい。

ワンターンビレイ、エイト環の場合キंकする。
ムンターを使った場合、ワンターンはいらない。
見ている方が多かった。付き添いが転んだりして
いたので安全確保をどうするのか

ハイキングリーダー学校報告

5 / 7 机上

ザイル・カラビナ・シュリングの使い方

鷹取山の岩トレに向けてロープワークの実践を行いました。テープ結び、フィッシャーマン、wフィッシャーマン、エイトノットなど結び方の練習と、ザイルを張ってプルジックでの登下りや、簡易ハーネスの方法を行いました。その後、次の計画と説明をして終了しました。(増田)

受講者 11名 講師 5名

5 / 17 鷹取山・岩トレ・ハイキング

鷹取山の岩場にて、ザイル・シュリング・カラビナの使用方法と実技をおこない今後の山行において、岩場や鎖場を安全に通過する方法を習得。

雨天中止 5/24日に参加できる人は行う予定でしたがこれも雨天で中止 (加藤)

6 / 7 - 8 地図読みと ビバーク山行

北鎌倉から六国見山、散在が池、天園ハイキングコース、横浜自然観察の森と地図読みをし、目的地ではツエルトの張り方を学び、夜食は非常食、夜は懐中電灯での夜間歩行を行う予定でした。雨がぼつぼつ降ってはいましたが地図読みには影響が無く、東屋ではビバークの準備をしましたが、ここでは出来ないと言われて近くの山へ移動してビバークの体験をしました。眠れない人もいたと思いますが、今後の山行のよい体験になったことでしょう。(加藤) 受講者 6名 講師 3名

6 / 19 机上 夏の天気(梅雨、台風、雷と避雷)

天気はどう変化するのか。高気圧、低気圧について、日本に影響を与える気団と季節、台風の発生と進路につて、雷にはどう対処したらよいのかということ、質問を受けながら行ないました。

(増田) 受講者 9名 講師 3名

ハイキングリーダー学校活動報告

湯ノ丸山/雪山に慣れる 3月20日(金)~21日(土)

15期生対象の雪山トレーニングがKHC小林会長の別荘を宿泊先として行われました。20日は早朝から雨が降っており、午前中は座学に変更し資料を使って講義をし、午後から天気が回復したので小諸市内の布引観音を観光しました。21日は晴天になり冷え込みましたので、雪のコンディションも良く林道入り口から雪がついており、林の中を15期生全員スノーシューで歩行、尾根に出たからアイゼンで山頂まで登り、雲一つ無い360度のパノラマを見る事ができました。山頂から少し下った所でトラバース歩行、

ザックを使った緊急避難用の雪洞の作り方を学び、スノーシューにて下山、初めて雪山の体験をした方もおりました。

佐渡島/シラネアオイを見る 5月9日(土)-10日(日)

各会から28名の参加がありました。9日はアオネバ登山口 十字路 マトネ 石花に下山しました。このコースは特にシラネアオイが多く群生していましたが、春先から咲き始めるキクザキイチゲ、カタクリ、ザゼンソウ等、初夏に見られるサンカヨウ、ヤマシャクヤクも見られ沢山の花に出会うことが出来ました。そして宿泊先のフィールドパークでの夕食のバーベキュー、楽しかった交流会・・・?。翌日は妙見古参道 見返り坂 天狗の休み場等、現地ガイドがないと歩けないパリエーションルート、このルートもユキワリソウ、シラネアオイが多数咲いており、150m下りないと見られない黒滝、花と展望を満喫しました。この企画はYHC増田さん、佐渡汽船の皆さんのご尽力によるものです。 清藤

ハイキングリーダー学校 ビバーク体験

横浜ハイキングクラブ 田邊 裕子

6月6日 北鎌倉から六国見山・鎌倉湖・大平山と歩いた後、道に迷ったと想定し、横浜自然観察の森でビバークを体験した。

日中の雨のため自然公園内ではあずま屋内でビバーク体験を行うことにし、ツエルトの張り方、ガスコンロ、非常食、ヘッドランプの使用等、初めての体験にわくわくしながら夜を待った。ところが自然公園内は宿泊、火の使用は禁止だと職員に注意を受けてしまい退去することになってしまった。19時近くになって本当のビバーク場所を探して歩く。幸い近くにツエルトを張ることのできる場所を見つけた。見晴らしの良い高台にビバークを決め避難をする。2人用のツエルトに3人で横になるが、私はどうも頭の方が低かったらしく、寝苦しくて一睡もできなかった。ビバークだからと自分に言い聞かせて朝になるのを待ったのだった。そして早朝に下山し帰路についた。今回の想定外の出来事はリアルで貴重な体験であり、良い勉強になりました。



ミニ学習・三角布の使い方の実習を見て

2009.6.13 中山建生

6月10日県民サポートセンターに着く。二ヶ月ぶりに会員の元気な姿をみるようになった。機関誌と登山日程表を手にして参加した会員の話を聞いていた。会の運営も準備がなされ通常の例会を終えた。私は今日ミニ学習会有一些あることを知らずに参加した。講師役には関会員と結城会員が務めた。最近の登山での事故は圧倒的に中高年者である。転倒、滑落による外傷事例が数を占めている。と同時に狭心症や脳梗塞という生死に関わる重大な事例も見られるようになった。その多くは会員の側に危機意識がなくだれもが登っているからと安易に考えている。まわりの会員も「あの人は最近退院した」「心臓が悪いんだってよ」と知っていて注意をしないし、前夜発の夜行バスで登山口に着くような計画を平然として行っている。事故を取り扱う関係者の間からは毎年のように「最近の登山者は自覚がない」「自分たちできちっと問題の解決が出来ない」と厳しい指摘を受ける。私の中高年者のひとりで耳が痛い。

今回の実習は三角布のたたみかたであった。結城会員は毎年講習を受けていると話した。私の教えた東京の生徒も10年続けて受講している。彼は「続けていてようやく幾つかが自然と出来るようになった」と話した。講習を受けているときは出来ても実際の現場ではひとつのことだけではないためスムーズに事が運ばない。たいていは間違えて、「あれどうするんだっけ」となる。実際の作業は回数を、模擬訓練をしなくては要領を得ない。頭のなかだけで出来ると勝手に思い込んでいることがほとんどである。二人は丁寧に教えておりういういしくて好感が持てた。8月に沢の中でのクラス分けしたメンバーに試してみようと思う。多くは出来ない、失敗した

ことから学ぶことが力を着けることになる。

昨年の事故のまとめから、医療関係者に登山者の多くが簡単な止血が出来ず、感染症に対する心構えと対策がないと言われていた。自宅に戻り資料に手直しをして植木さんに学習資料として翌日送った。

10年ほど前に北海道の雪崩講習会でケチャップ2本を白いシャツにかけて打撲切傷の事故者を雪の中に寝かせた。レスキュー訓練のひとつまでどうするのかを試すためであった。たいていはギョッとして疎むか、不快な顔をして立ちっぱなしとなる。北岳で落石にあった学生は頭から血を流してふらふらと倒れたが、だれもすぐには近寄ろうとはしない。応急処置を済ませて着替えさせ、意識がはっきりしたところで同行者に注意を与え今日中に病院に行くようにとメモを渡した。このときも4人の同行者はひとりとして止血が出来ず、おろおろとするだけで役にたたなかった。更に連絡手段も持たず緊急連絡先も分からなかった。

正直私も血を見るのはいい気持ちがない。増して頭や首を負傷しているときは生死に関わるから応急処置をしていても不安で一杯になる。30年以上も前のことだが谷川で飛び散った体の一部を回収した時など寒気がした。他の登山者の通行があるため放置したままではすまずなるべく片付けることになる。がこんなことはだれでもができるわけではない。ケガや骨折の処置で終えればまだしも、遺体の回収時に包帯や手ぬぐいで体を巻いたり縛ったりすることがある。救急法で習ったから出来るなどと思っていると感染症に注意がいかなかったり、気が動転してケガをするなど思わぬことになる。

関会員、結城会員の熱意が伝わったようである。機械があれば野外での実習を彼らとともにしてみたいと思った。私もしばらく弾性包帯を巻いていない。きっと腕が落ちていないに違いない。

第17回全国ハイキング交流集会in唐沢鉱泉

第一次実施要項

主催 日本勤労者山岳連盟・ハイキング委員会 主管 日本勤労者山岳連盟・ハイキング委員会

日時 2009年9月12日(土)15:00~13日(日)12:00(一泊二日)

場所 八ヶ岳・唐沢鉱泉 天狗岳の登山口

〒391-0211 長野県茅野市湖東1323 0266-76-2525 fax0266-76-6071
茅野駅東口より送迎バスで40分 駐車場有り

目的 全国各地のハイキング仲間が集い、活動や経験を交流し多様なハイキング要求の実現と可能性を追求する。

メインテーマ「ハイキング文化を次代に引き継ぐために今何をなすべきか」

参加費 12000円(宿泊費、諸経費)

参加費振込先 郵便振替口座 口座番号 00140-5-563328

加入者名 労山行事会計係

次ページへ

全国ハイキング担当者会議報告

09.6.27(土)~28(日)の2日間、於・全国事務所
全国ハイキング委員 小野寺英夫

初の会議の狙いは、地方連盟がハイキングをどの様に理解し、ハイキングの活動を支援・指導しているのか、その実態を把握し、今後の全国・各地方連盟の行動に生かす。特に全国連盟の会員の70%を占めるハイキング層の安全と楽しみの継続を大切に、そして、会員拡大に結びつけるところにあった。主に確認したかった項目は、ハイキング層に対する教育、リーダー・後継者の育成、事故防止のための安全対策、会員拡大に対する活動状況の4点であった。今回は、青森県から沖縄県まで、18都県から21名の参加者を得て、第1回全国ハイキング担当者会議が開かれた。神奈川県からは、加藤(藤沢山の会)さんからの資料の提供を、小林(川崎HC)さんには出席を頂きました。

ここでは私が感じたところを主とし、ご報告させていただきます。まずは、地方連盟内に組織として『ハイキング委員会』が有るところは神奈川県を含め3県で、殊にハイキングを背負うリーダーの育成、又、県下の交流ハイキング活動を担っていた。組織にハイキング委員会はあるが名前だけが2県、同委員会はないが、連盟として教育委員会・企画委員会を持ち、必要に応じハイキング教育・リーダー講座・読図講習会などの活動を行っているが都と1県であった。他の地方連盟は、種々の事情があると思うが、会・クラブに一切を委ねていた。全体をみると項目3の安全対策は各地方連盟とも活動の様が伺えるが、項目1・2・4については、向き合う姿勢にかなりの温度差があることを確認した。

次に、各地方連盟が行っている、又行動に移したなど、私なりに参考と思うところを拾い挙げて

みました。教育の面では、各種の講習会に責任者設け、合同で効率的に行っている。小さい会・クラブに講師を派遣している。県連がアンケートにより全体の傾向を把握している。各会のピックアップによる会員で、青年部(自称青年を含む)を構成し、沢・クライミングなど必要な活動を行っている。

連盟内の交流としては、栃木・茨城・群馬・埼玉の県が合同でスローガンを掲げ、県を跨ぎハイキングを実施し、既に31回を数えている。県連主催で各会・クラブに参加を呼び掛け、隔年ではあるが『ふれあいハイキング』を実施している。福岡県連主催で、大学教授の協力を得て、Eベース登山「運動能力測定山行」に取り組んでいる。埼玉県連主催で、大学教授の協力を得て、「心拍数測定登山」を実施した。

次に、会員拡大の面では、小・中・高校へ講師を派遣し、自然の素晴らしさ・山での感動を学ばせたい。低山ハイキング・探検(コンパス)にどんどん参加させ、現場での教育などで入会して貰っている。清掃・植樹・登山道整備など自治体との関係で労山を知らしめたい。日本勤労者山岳連盟を知らない、時代に即したネーミングを考えPRする発想はどうか。

写真 健康な登山へ 9回目となる運動能力測定山行の取り組みをスライドで発表する福岡県連



前ページより

参加定員 100名(スタッフ含む)定員になり次第締めきりとします。

内容 基調報告・経験発表

分科会 第1分科会 『会運営：後継者育成と会員拡大』

第2分科会 『事故防止と会員教育』

参加申込み・送付先及び問い合わせ先

用紙に必要事項を記入の上、お申込み下さい。申込書は連盟ニュース6月号をご使用ください。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24号

日本勤労者山岳連盟 ハイキング委員会気付

Fax 03-3235-4324

E-mail jwaf@jwaf.jp

問い合わせ先 090-5773-4652(石川) 090-6172-5065(伊藤)

FAX兼用 048-644-7923(伊藤自宅)

自然保護委員会報告 6月29日

参加8名 磯辺、高橋、大用、萩原、三上、関根、宮原
 水質報告：小林 クリーンハイク水質検査報告 検査箇所15
 のうち10か所から大腸菌検出。多くの水場から検出されたが
 雨の為に？採取箇所の写真撮影を兼ねて、8月に水場の10か
 所を再度調査する予定。

ボラネット開催の「ヒルシンポジウム」(8月30日)にて労
 山として「山ヒルの勉強会」実施要請あり。勉強会資料を集め
 て、開催に向けて準備を進める。

コース	清掃場所	下山口	担当会	リーダー	可燃物	不燃物	合計	人員	一般
A. 大倉高原	大倉～大倉高原 山の家～堀山	大倉	横浜HC	関根さち子		6.55	6.55	31	
			藤沢山の会	角田正夫		38.90	38.90	31	2
			こまきHC	青井定生		2.40	2.40	4	
			雪童	樋浦美弥		2.00	2.00	2	3
B. 大倉尾根	堀山～花立		カモの会	武田優子	0.15	2.35	2.50	9	2
C. 大倉尾根	花立～塔ノ岳		AC横浜	市川祐介		1.15	1.15	21	5
D. 丹沢山	塔ノ岳～丹沢山		地平線	石田美帆		14.50	14.50	5	
			山ブキ	青柳百合子				1	
E. 鍋割山	鍋割山		ナーゲル	高橋和正	0.65	8.65	9.30	17	
F. 新大日	戸沢出合～ 新大日		横浜こぶし	上野昭典	0.15	9.90	10.05	7	
			みずなら	千葉雅子		6.60	6.60	17	
G. 戸川林道	林道とキャンプ場		川崎労山	望月勝司	0.10	6.30	6.40	13	
くぬぎ山	くぬぎ山	大倉	山ゆり	草野正昭		28.30	28.30	1	13
I. 表尾根	ヤビツ峠-二ノ塔	大倉	柴笛	佐藤三郎		3.50	3.50	6	
J. 表尾根	二ノ塔～三ノ塔								
K. 岳ノ台		ヤビツ峠	川崎HC	八島彰子	3.00	27.20	30.20	9	
			緑星	岡田紀子	1.50	4.00	5.50	6	2
M. 大山下社	下社～大山 ～ヤビツ	ヤビツ峠	川崎HC	岩佐キミ子	1.00	12.00	13.00	9	3
			やま+ +	池田裕治	0.60	2.20	2.80	3	2
N. 大山 日向薬師	日向薬師～見晴台 ～大山～ヤビツ		川崎HC	吉岡 貴	2.50	5.00	7.50	11	
			神大WV	渡辺朱美					4
			関東学院WV	一之瀬					4
ヤビツ峠建物付近				本部要員	13.50		13.50		
養毛・ヤビツ峠	養毛・大山～ヤビツ			小谷		2.00	2.00		1
合計					23.15	183.50	206.65	203	41

総参加者 = (本部要員29名 + 水質調査21名 + 登山道整備24名 + 県職員3名 + 一般参加者41名 + 227名) 345名

2009年丹沢水質調査速報

神奈川県連盟自然保護委員会

5月30日(土)に実施しました丹沢水質調査は、曇りときどき雨のあいにくの天候でしたが、無事に終
 えることができました。ご協力いただいた会の皆様、有難うございました。

今回は数日続いた雨の影響か、沢(表流水)ではツメを除いてほとんど大腸菌が検出されました。湧水で
 も、大山春岳沢水場と竜神の泉脇の流水で大腸菌が検出されているので、水場の整備が必要かもしれませ
 ん。

また、今回は少し色がついている試料があったので、大腸菌のほかに色度も調べてみました。水道水の
 場合は、一応水質基準が色度5度以下となっています。これから梅雨に入ると山の場合は、よりいろい
 ろな有機物が沢に流れ込むことも予想されますので、基準値より大きい値の出ている一の沢は注意が必要で
 す。

これからもこの調査を続けて、丹沢の水を見守っていきたいと思います。
 来年の水質調査にもぜひ、ご協力を宜しく願いいたします。

採水日：2009年5月30日(土) 天気：曇りときどき雨(前前日から雨)

場 所	大腸菌	色度	場 所	大腸菌	色度
水無本谷(出合い)	陽性	1.0	一の沢(ツメ)	陽性	11.5
水無本谷(ツメ)	陰性	0.0	一の沢(取水口)	陽性	6.5
源次郎(出合い)	陽性	1.0	大倉高原山の家	陽性	6.0
源次郎(ツメ)	陰性	0.5	塔ノ岳の水場	陰性	0.0
勘七の沢(出合い)	陽性	1.0	大山春岳沢の水場	陽性	0.0
勘七の沢(ツメ)	陽性	1.5	ゴマ屋敷水場	陰性	0.0
後沢乗越の水場(沢)	陽性	2.5	葛葉の泉	陰性	0.0
			(竜神の泉流水)	陽性	2.5

計量の対象 = 大腸菌 / 100ml : (財)新日本検定協会
 色度: 共立デジタルバックテスト(度)

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計43名(男29 女14) 平均 歳

5/31 クリーンハイク(14)	6/7 甲府幕岩(2)	6/19-21 安達太良山(6)	6/28 総会
6/6 本社ヶ丸-鶴ヶ鳥屋山(2)	6/13-14 小川山(3)	6/19-21 坊主岩(6)	
	6/14 天王岩(4)	6/27 鷹取山(4)	

川崎ハイキングクラブ

報告：二瓶 誠 計103名(男51 女52) 平均61歳

5/17 弘法山/秦野(1)	6/6-7 蕎麦粒山/奥多摩(2)	7/18 明神ヶ岳/箱根
5/19-20 雲取山/奥多摩(7)	6/7 石垣山/小田原(14)	7/19 松田山/丹沢
5/22-24 大台ヶ原/奈良(10)	6/7 川苔山/奥多摩(23)	7/17-21 劔岳/北アルプス
5/22-24 平ヶ岳/尾瀬(5)	6/7-10 飯豊連峰縦走(3)	7/24-28 大雪山 トムラウシ/北海道
5/23-24 万次郎・万三郎岳/天城(4)	6/9 扇山/中央沿線(2)	7/25-29 白山/北アルプス
5/28-31 甲武信ヶ岳～金峰山(5)	6/13 入笠山/南アルプス(7)	7/25-29 奴六岳～笠ヶ岳/北アルプス
5/31 金峰山・瑞牆/奥秩父(2)	6/14 津田山緑ヶ丘霊園/セルフレスキュー(30)	7/28-30 朝日連峰/東北
5/31 クリーンハイク/丹沢(30)	予定	8/15-17 鳳凰山/南アルプス
6/3 不老山/丹沢(8)	7/3-5 羊蹄山/北海道	
6/6-7 横浜自然観察の森/県連HL学校(1)	7/5 三頭山/奥多摩 例会山行	
	7/12 勘七の沢/丹沢	

川崎柴笛クラブ

報告：雪竹雅士 計32名(男19 女13) 平均48歳

6/3 ヤビツ峠・塔の岳・鍋割・大倉(2)	アンヌブリ・余市岳(1)	6/20 湯河原幕岩(1+1)	6/27 外山沢川(1+4)
6/6 鹿島槍ヶ岳(7)	6/12-13 三つ峠(2)	6/20 生藤山(1)	6/27 田子の浦-須山登山道-富士宮口五合目(1)
6/6-7 大谷原～三ルンゼ末端(12+2)	6/13 高尾山(1+1)	6/20 一ノ倉沢南稜(3)	6/27-28 北岳(4+1)
6/6-7 大倉・箱根屋沢(3)	6/13 湯河原幕岩(2)	6/20 大岩山・日向八丁尾根(1+3)	6/27 つづら岩(1+1)
6/6-7 錫杖岳(1+1)	6/14 屏風岩山(6+1)	6/20-21 地蔵岳(2+1)	6/28 藤野駅～陣馬山～高尾山～高尾山口駅(1)
6/7 塔の岳-蛭ヶ岳(1)	6/14-15 月山・清川行人小屋ルート(1)	6/21 明神、明星(4+1)	6/29 谷川山系・天神山(1+1)
6/10 富士山(1)	6/14 甲府幕岩(3+2)	6/25 マスキ嵐沢(4)	
6/12-14 羊蹄山・ニセコ新山(1)	6/16 鳥海山・伏拝岳・新山(1)	6/26-29 羅白岳、斜里岳、雌阿寒岳(1)	

アルパインクラブ横浜

報告＝岸 計38名(男23：女15) 平均 歳

6/6-7 丹沢大倉, 西丹沢箱根屋沢北接尾根(県連救助隊訓練)(1+19)	山(1+1)	6/15-16 谷川岳(南稜, 中央カント)(1+3)	6/27-28 小川山(4)
6/7 つづら岩(3)	6/9 小川山(2)	6/20 女郎小屋沢(1+3)	6/28 瑞がき山十一面末端壁(2+1)
6/7 湯川の岩場(2)	6/14 小川谷(1+2)	6/20 高尾山(1)	6/28 富士山(1)
6/7-8 裏妙義山, 表妙技	6/14 甲府幕岩(2)	6/20 塔ノ岳(1+1)	6/29 小川山(2)
	6/14 両神山(2)	6/27 モミソ岩(3)	
	6/15 尾瀬ヶ原(1+1)		

横浜ハイキングクラブ

報告＝池上準子 計57名(男20：女37) 平均60歳

6/4-6 涸沢・上高地-横尾 中止	6/11 室内例会(44)	7/26-28 千畳敷～宝剣岳～木曾駒	8/13-15 甲斐駒・仙丈岳
6/6 畦ヶ丸・大滝橋～畦ヶ丸～丹沢 中止	7/2-3 至仏山・鳩待峠～竜宮	7/14 室内例会	8/23 箱根・西岸歩道
6/7 筑波山(12)	7/5 三国峠～三国山	8/1-2 苗場山	8/30 葛葉沢(沢登り)
6/14 ロックガーデン(17)	7/21-23 秋田駒ヶ岳・八合目～焼岳	8/6-8 扇沢～爺ヶ岳～鹿島槍	8/20 室内例会

みずなら山の会

報告：阿部ひろみ 計31名(男21 女10) 平均 歳

5/16 西丹沢石棚沢(1)	5/23-24 御前ヶ遊窟(1+2)	6/6 川谷廊下(1+3)
5/16 大倉～塔ノ岳(1)	5/23 源次郎沢～源次郎尾根(3)	6/7 広沢寺若トレ(1+1)
5/16 八丁峠～両神山(3)	5/23-24 上蒜山・三瓶山(1)	6/7 谷川岳一ノ倉沢中央カント(1+1)
5/16 谷川岳一ノ倉沢ダイレクトカント(1+1)	5/30 源次郎沢(1)	6/13 谷川岳一ノ倉沢烏帽子南稜(1+1)
5/23 丹沢弁天尾根～本間の頭(7)	5/31 クリーンハイク(22)	6/13-14 尾瀬(8)
5/22-23 針ノ木雪渓～マヤクボ沢山スキー(3)	6/5-7 戸隠・高妻山(4)	
5/22-24 小川山(1+3)	6/6-7 南ア小無間山～大無間山(1+1)	
	6/6-7 救助隊 搬出訓練(7)	

横浜こぶしの会

報告=田辺美由紀 計27名(男19人 女8人) 平均52歳

6/4-7 礼文(1)	6/20 沢トレ・マスキ嵐沢(10)	7/4 石垣山	7/17-19 薬師
6/7 広沢寺(7)	6/26-28 荒島岳(1)	7/10-12 白毛門山	7/25-26 富士山
6/12 木曾駒(1)	6/27 早池峰山(1)	7/17-19 小川山	9/ 朝日連邦
6/13 雁が腹摺山(7)		7/17-19 鳥海山	

藤沢山の会

報告=中河原昭夫 計82名(男39:女43) 平均62歳

6/6-7 茅ヶ岳・御座山(9)	6/17 カシミール学習会	7/1-3 火打山(4)	7/29-8/2 飯豊連峰(4)
6/7 檜洞丸(5)	6/20 滝子山(会ハイク)	7/1-10 北欧(2)	8/1-2 水根沢
6/10 例会・GPS学習会(38)	(12)	7/7 機関誌印刷	8/5 運営委員会
6/12-14 鶏冠山(2)	6/23-7/3 インド・ロリー	7/3-8 トムラウシ岳(5)	8/11 機関誌印刷
6/13 広沢寺岩トレ(5)	コリー(2)	7/8 例会	8/12 例会
6/14 モミソ沢(教育部実技)(1)	6/24 例会・読図学習会	7/11-12 釜の沢	8/15-16 北信五岳(夏山合宿)
6/14 天城山(6)	(38)	7/12 大倉尾根(教育トレ)	8/26 例会
6/14-15 富士山(5)	6/27 マスキ嵐沢(8)	7/22 例会	8/29-30 大雲取谷
6/15 毛無山(4)	6/27-28 富士山(4)	7/20-8/20 ペルー・プランカ山群(3)	
	6/28-29 富士山(2)	7/24-27 西穂~前穂(5)	
	7/1 運営委員会		

相模アルパインクラブ

報告:水村和也 計41名(男29:女12) 平均52歳

5/27 広沢寺(3)	6/06 小川谷(リーダー学校)(1)	6/13-14 甲府幕岩(1)	6/19-20 小川山・湯川(2) 予定
5/30 小川山・湯川(2)	6/06-07 甲斐駒ヶ岳(3)	6/12-13 錫杖岳・左方カント(3)	6/27 甲府幕岩(2)
5/30 幕岩(2)	6/06-07 小川山(3)	6/14 表尾根(2)	6/27-28 赤岩尾根(1)
5/31 岳ノ台(クリーンハイク)(16)	6/06-07 小川山・湯川(2)	6/13-14 椿丸(5)	6/27-28 富士山(2)
6/01 高尾山(1)	6/07 権現山~扇山~百蔵山(1)	6/14 塔ノ岳(1)	6/28 一ノ倉沢ニルンゼ(2)
6/02-03 三ツ峠(2)	6/13 中山(1)	6/14 塔ノ岳(1)	7/14-18 利尻岳・礼文岳(1)
6/06-07 大倉周辺、箱根屋沢北接尾根(5)	6/13 幕岩(2)	6/20 甲府幕岩(1)	
		6/20 三ツ峠(3)	

カモの会

報告:志村杏子 計65名(男42:女23) 平均35歳

6/6-7 赤岳、阿弥陀岳(24)	6/20 小川山(2)	6/27 塔ノ岳(4)
6/6-7 小同心クラック(2)	6/20 日和田山(4)	
6/7 セドの沢左俣(4)	6/20 ナメラ沢(8)	その他、個人山行記録多数あります。
6/13-14 一ノ倉沢烏帽子岩奥壁南稜&中央稜(2)	6/23 勘七ノ沢(3)	ヤマレコでご確認下さい。
6/14 日和田山(5)	6/27 葛葉川本谷(2)	ht tp://www.yamareco.com/
	6/27 三ツ峠(2)	

雪重山の会

報告:小緑岳志 計18名(男13 女5) 平均44歳

6/1-2 丹沢(犬越路-大室山~畦ヶ丸-ショクボの頭-用木沢出合)(2)	6/13 丹沢・女郎小屋沢(2)	シン沢~源造尾根)(3)
6/7 丹沢・広沢寺弁天岩(2)	6/13 甲斐駒ヶ岳(黒戸尾根から往復)(1)	6/20-21 鋸岳・甲斐駒ヶ岳(角兵衛沢-鋸岳-甲斐駒ヶ岳-北沢峠)(2)
6/7 丹沢(富士見橋~行者ヶ岳往復)(1)	6/14 御岳(王滝口から往復)(1)	6/27 苗場山(かぐらみつまたスキー場から往復)(1)
6/7 武尊山(武尊牧場スキー場-三合平-中ノ岳-武尊山往復)(1)	6/14 谷川岳・一ノ倉沢(中央稜基部まで)(6)	6/27 湯河原・幕岩(2)
6/7 針ノ木岳(針ノ木雪渓~マヤクボ沢~針ノ木岳往復)(2)	6/14 榛名・黒岩(6)	6/27 甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根(途中まで)(1)
	6/20 甲斐駒ヶ岳(黒戸尾根8合目まで)(1)	
	6/20-21 丹沢(神ノ川金山谷~ユ-	

やま+

報告:栗田 彰 計11名(男8:女3) 平均50歳

6/6-7 上越・小松原湿原(5)	6/24 例会(10)	7/18 沢・逆川、
6/10 勉強会・山の危険な動物(10)	7/4 有明山、	7/24-26 五竜岳・鹿島槍ヶ岳、
6/13-14 大菩薩縦走(5)	7/6-9 大雪山縦走、	7/22 例会
6/20 滝子沢左股(5)	7/8 例会、	

山ブキの会

報告:青柳 計7名(男 :女7) 平均63歳

5/4-5 金峰山	6/8-9 雲取山	6/23-7/4 ヒマラヤトレック	7/12 高畑山、倉岳山
5/17 入笠山(新婦人)	6/14-15 富士山(トレ	キング	7/13 ミ-ティング
5/26 高畑山、倉岳山	ニング)	6/27-28 富士山(トレ	7/22~24 燕岳
5/31 クリ-ンハイク	6/16-17 鍋倉山	7/2 高尾山~城山	

山岳素行重人メーグリ家

報告:尾形 計6名(男3:女3) 平均 歳

6/2 高尾山トレイルラン(1)	6/13 越沢バットレス(1+2)	6/20 有笠山フリークライミング(1+3)
6/2 八海山(1)	6/14 西丹沢 小川谷廊下(1)	6/21 西丹沢 小川谷廊下 岩山
6/5 西丹沢/浅瀬-世附川悪沢出合	6/14 丹沢 大山(2)	沢登講習(1+6)
(1)	6/14 県立L学校実技講師(2)	6/27 丹沢大山 大山沢(1)
6/7 小川山・春のもどり雪/流星	6/15 谷川岳 一ノ倉沢烏帽子岩	6/27 丹沢 葛葉川本谷(1)
めぐりマルチピッチ(1+1)	南稜(1+3)	6/27 富士山(2)
6/7 湯川クラック(1+1)	6/17 西丹沢 沖箱根沢右岸尾根	6/27 瑞垣クラック(1+1)
6/7 県連救助隊搬出トレーニング(2)	~箱根屋沢左岸尾根(1+1)	6/27 丹沢 源次郎沢(1+1)
6/9 湯の倉山(1+2)	6/20 伊豆 城山フリークライミ	6/28 五日市 天王岩フリークラ
6/9 三頭山~浅間峠トレイル(1)	ング(1+2)	イミング(1+1)
6/13 広沢寺 弁天岩(2)	6/20 西丹沢 玄倉川女郎小屋沢	6/28 谷川一ノ倉烏帽子沢奥壁中
6/13 太刀岡山 鉄岩左岸稜(1+1)	(1+3)	央カンテ(1+1)

「登山者のための-ヤマビル シンポジウム」 参加者募集

<主催> 丹沢大山ボランティアネットワーク(丹沢ボラネット)

<後援> 丹沢大山自然再生委員会

日 時: 8月30日(日) 10:00~12:30

会 場: 県自然環境保全センター新館レクチャールーム <本厚木駅 バス30分>

参加費: 無料

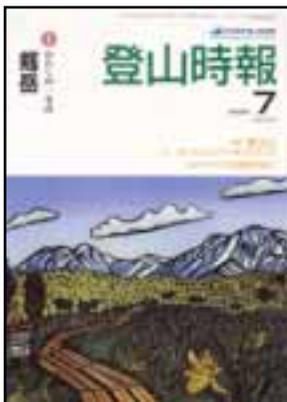
定 員: 60名(申込み先着順)

申込み: ボラネット事務局 保全センター自然保護課 FAX 046-248-0737

ないしは シンボ係 E-mail: m-okutu@22.catv-yokohama.ne.jp

プログラム(タイトルは仮)

- | | | |
|-----------------------------|---------------------|-------------|
| 1. ヤマビル・その生態について | : 岩見光一(県自然環境保全センター) | 10:00~11:00 |
| 2. 事例報告: 丹沢に於けるヤマビルの実状 | | 11:00~11:45 |
| 1) 県ヤマビル対策協同研究から | : ヤマビル研究推進会議 | |
| 2) 丹沢を歩いて・東&今の状況 | : 神奈川県勤労者山岳連盟 | |
| 3) 丹沢を歩いて・北&少し以前の状況 | : 北丹沢山岳センター | |
| 3. 意見交換 | | 11:45~12:30 |
| 各自昼食後、希望者は、現地七沢周辺の見学会を開催します | | 13:15~15:00 |



登山時報 7月号 目次

連載 わたし的一名山 劔岳 畑誠一 04

新連載 クイズ 地図読み迷人 村越真

特集 富士山 今、富士登山の安全と魅力

を考える 09

労山へ登ったよ! 神奈川友紀 22

ヒマラヤに雪男を捜し続けて 高橋好輝 24

<普段着の山> 初夏の南アルプス連峰

野鳥との出会い ルリビタキ 鈴木澄雄 03

シグナル 連休中の事故 小枝琢三

タカトリ今昔物語 福井壽彦 10

新規加盟団体の紹介 齊藤義孝 12

京都伏見山の会 田原 裕 20

連載 碧い南の島だより 雨宮 節 26

山で気になるカンキョーの話 菊地敏之 21

山での救急法(3) 全国連盟遭難対策部 27

JWAFクリック 28

伊藤達夫さんを偲んで 30

全国連盟の活動 31/専門委員会活動報告32

編集後記 34

インタビュー ひと 大貫金吾さん

後藤功一 35

地元会員特選ミニガイド

京都・嵐山/小倉迪夫

福岡・福智山/花井雄一 36

ブックエンド『富士山の文学』他

倉光正己他 38

あらかると 南米の山々 原 眞 39

会報えつらん室 藤田栄子 40

オススメ山道具 フード付きザックカバー 笹原芳樹 42

県連のスケジュール

7月			8月			9月		
1	水	登山リーダ養成学校机上講習	1	土		1	火	常任理事会
2	木		2	日		2	水	登山リーダ養成学校机上講習
3	金		3	月	常任理事会	3	木	
4	土		4	火		4	金	
5	日		5	水	登山リーダ養成学校机上講習	5	土	救助隊セルフレスキュー
6	月	常任理事会	6	木		6	日	救助隊セルフレスキュー
7	火		7	金		7	月	遭対部会/連盟news印刷
8	水		8	土		8	火	事務局長会議/連盟news発行
9	木		9	日	H Cリーダ学校実技講習	9	水	
10	金		10	月		10	木	
11	土		11	火		11	金	
12	日	登山リーダ養成学校実技講習 H Cリーダ学校ワークショップ計画	12	水		12	土	登山リーダ養成学校実技講習
13	月	遭対部会 連盟news印刷	13	木		13	日	定期理事会 登山リーダ養成学校実技講習
14	火	事務局長会議/連盟news発行	14	金		14	月	
15	水		15	土		15	火	全国理事会 / 救助隊運営会
16	木	H Cリーダ学校机上講習	16	日		16	水	
17	金		17	月	ビーコン講習会	17	木	H Cリーダ学校机上講習
18	土		18	火	事務局長会議/連盟news発行 全国理事会 / 救助隊運営会	18	金	
19	日		19	水		19	土	
20	月		20	木	事務局部会	20	日	
21	火	全国理事会	21	金		21	月	
22	水		22	土	登山リーダ養成学校実技講習	22	火	
23	木	事務局部会	23	日	登山リーダ養成学校実技講習	23	水	
24	金		24	月		24	木	事務局部会
25	土		25	火	ビーコン講習会	25	金	
26	日		26	水		26	土	H Cリーダ学校実技講習
27	月	自然保護委員会	27	木		27	日	H Cリーダ学校実技講習
28	火		28	金		28	月	自然保護委員会
29	水		29	土		29	火	
30	木		30	日		30	水	
31	金		31	月	自然保護委員会			

2009年度以降の全国的な規模の集会・会議予定

女性のためのヒマラヤ学校

6月23日～10月27日 6コース
(インドヒマラヤ、ヒマチャール州)

中央登山学校・指導者セミナー

7月上旬 東京・全国事務所

全国山岳遭難対策協議会

7月17日 (東京の予定)

第21回海外の山を知ろう

7月23日 東京都豊島区

第17回全国ハイキング交流集会

9月12日～13日 八ヶ岳・唐沢鉦泉

M F A インストラクター養成講座

秋(未定)

第9回全国救助隊交流集会

10月31日～11月1日 (富山県・登山研修所)

第11回東日本女性登山交流集会

秋()

全国自然保護担当者会議

11月14日～15日 (長野・信濃大町)

第21回全国海外登山集会

11月28・29日 (千葉県)

第29回全国総会

2010年2月20日～21日 東京・晴海G H